アジア研究教育ユニット 2024 年度教育研究報告書

事業課題名	映画祭への教員・研究者派遣
代表者名	ミツヨ・ワダ・マルシアーノ
事業概要 (600 字程度)	<p>本研究事業は、東アジアにおける女性映画祭の在り方を比較調査し、各国の女性映画祭の映画産業への影響について考察するものである。</p> <p>現在日本で唯一の女性映画祭である、あいち国際女性映画祭（開催日 2024 年 9 月 5~8 日）は、同年 29 回目を迎える反面、歴史的に映画産業や批評空間への影響力が少なく、社会的インパクトが小さいと見なされている。一方、東アジア近隣諸国／地域（例えば韓国や台湾）では、複数の女性映画祭が毎年開催されているだけでなく、映画祭が次世代の女性映像作家たちを支援し、女性による優秀な作品を輩出する助けを行っている。</p> <p>あいち国際女性映画祭を、ソウル国際女性映画祭（同年 8/22~28 開催）及び台湾国際女性影展（同年 10/12~22 開催）と比較研究することによって、日本の女性映画祭の現状を把握し、映画祭研究への新たな貢献を計ることが本事業の目的である。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>台湾、日本の両国における国際女性映画祭の比較を実施することができた。</p> <p>2024 年 9 月 7~8 日に、あいち国際女性映画祭に参加。社会学博士を取得したばかりの Kim Suhyun 氏も同行した。韓国映画及び東アジアにおける複数国による映画共同製作研究を専門とする Kim 氏とは、前年 2023 年 8 月にソウル国際女性映画祭に同行していることもあり、最終的に 3 つの映画祭の多くの異なりについて話し合う機会を得た。</p> <p>2024 年 10 月 18~25 日には、台北で開催された台湾国際女性影展 (Women Make Waves International Film Festival、以下 WMWIFF) に参加。予算の都合もあり Kim 氏が同行できなかったのが残念であったが、金沢大学人間社会研究域国際系の准教授・久保豊氏が同行できたことで、WMWIFF について、特にクィア映画を専門としている久保氏と、映画祭について、またそこで上映された作品について意見を交換することができた。</p> <p>上記の 2 つの映画祭のリサーチから多くのことを学んだわけだが、ここでは 2 点に絞って考察を記述することにする。まず、このような東アジアにおける女性映画祭の比較研究は、これからも時間をかけながら、東アジアという地域を越えた、世界中に点在する女性映画祭の中にマッピングする形で分析を進めて行く必要があることにも気付かされた。</p> <p>もう一つは、〈女性〉の映画祭である意味について、多角的な意味及び意義について考える必要がある点だ。例えば、あいち国際女性映画祭は日本で唯一の女性映画祭だとされているが、その他にも規模は小さいながらもシニア女性映画祭が毎年 11 月に大阪豊中市で開催されている。また、WMWIFF では、女性だけに限らずジェンダーマイノリティに関する作品も重視しており、こういったアイデンティティの捉え方と映画祭の政治学との関係性を更に注視する必要があることに注目する。女性映画祭研究は、今後数年かけて一つの論文に仕上げていくつもりである。</p>